**大阪府都市基盤施設維持管理技術審議会　平成26年度第1回全体検討部会**

日時：平成26年5月30日 15:00～17:30

場所：大阪府庁　新別館　北館　多目的ホール4階

出席者：鎌田部会長、貝戸委員、長尾委員、山口委員

議事内容：

１．平成25年度第2回幹事会・第4回全体検討部会の議事要旨確認

２．各分野部会の報告

３．戦略的維持管理の推進（基本方針）の検討

４．平成26年度のスケジュール（案）について

１．平成25年度第2回幹事会・第4回全体検討部会の議事要旨確認

平成25年度第2回幹事会・第4回全体検討部会の議事要旨について、事務局より報告が行われた後、内容について確認が行われた。

２．各分野部会の報告

山口委員より、道路・橋梁等部会の検討状況について、ご報告があった。

長尾委員より、河川・港湾・公園部会の検討状況について、ご報告があった。

鎌田全体検討部会長より、下水等設備部会の検討状況について、ご報告があった。

各部会からのご報告が行われた後、内容について確認が行われた。

３．戦略的維持管理の推進（基本方針）の検討

事務局より、資料２都市基盤施設長寿命化計画(仮称)基本方針(たたき台)に基づき、説明が行われた後、討議が行われた。

*1章～3章に関して*

○本計画の対象期間の10年間の根拠はなにか。

○時代の変化とともに計画がその時点で妥当であったかどうかを確認すべきである。

●現状・課題認識を記載する部分では、これまで議論してきた課題をもっとインパクトある形で示す方が効果的である。例えば、維持管理は高度な技術力を要するが、技術者の減少などから、なかなか日々の中で技術力を高めていく仕組みが確立できていない。など、強調して記述すべきである。

*～4.2.1章に関して*

●｢維持管理＝点検｣という印象を受ける。点検の結果をどう活用していくのか、評価・診断をどうするのかについても、説明を充実させていく必要がある。

●点検するだけではなくて、その先が重要であり、記述していただきたい。

●点検について分量が多く偏りがあるように見える。P44の維持管理の全体のフローをはじめに示し、各論をバランスよく説明するべきである。

●点検データと補修データを有機的に結び付けて維持管理に繋げるということが、見えにくい。部会で出された意見を漏れなく反映できているかの確認をお願いしたい。

●点検の分類に示される点検内容が、分野ごとに達成できているのかを、各分野部会で確認する必要がある。河川であれば、簡易点検でなく巡視程度しかできていないのではないか。

●点検データは集計結果のみ残っている場合が多く、補修データと点検データを対比することができない場合が多い。データの活用時に不具合が生じるかもしれないので、補修履歴がどのような単位で残っているのか。これに対応して、どのような形で点検データが残っているのかの確認し、整合をとる必要がある。

*～4.2.3章に関して*

**【管理水準について】**

●限界管理水準は、法令で決められているのか、独自に設定するものなのか。管理水準は、何に対して決めるのかを明示する必要がある。例えば使用性、耐久性、許容応力を超えたら水準なのか。

●法令でいくと許容応力になるので、限界管理水準がかなり高くなる。

●管理水準の前提を明確にすることで、分野ごとを横並びで比較しやすい。

●管理水準の設定の前提となる要求性能が、何であるのかを、分野部会で意見収集しながら、議論を進めていく必要がある。

**【性能曲線、LCCについて】**

●性能劣化曲線に示す補修効果では、性能回復ばかりがあるが、劣化を抑制してくれる補修もある。

●LCCの定義を明確にするべきである。

○LCCのイメージ図を分かりやすくする必要がある。

**【重点化指標について】**

●発生確率は一定イメージがわかるものであるが、社会的影響については、どのように設定するのかを各分野部会で確認し、明示していただく必要がある。

●重みを一定にする目的でP69の縦軸発生確率・横軸社会的影響度の概念図があると思うが、P70は縦横の掛け算ではないので、「掛け算＝優先度」という表現ではなく、「総合的に優先度を判断」程度の表現にした方がよい。

●リスクは各分野施設ごとに定量的に示すことが難しいので、たたき台の通り、社会的影響度の各要素がどのカテゴリーに属するのかを分野ごとに整理するという方向でよい。定量的に示すことは非常に難しい。

*～4.2.6章に関して*

●パトロールや点検、そしてデータの蓄積など色々やっていただくとなると、職員の負担がかなり大きいと感じるが、本当に実現可能なのか。理想を追い過ぎても駄目なので、達成可能な体制や方法を考えていただきたい。

*4.3章に関して*

○経費の中でも増減の激しいものがあったり、比較的安定しているものがあったりするのだと思う。変動の激しいコストは対外的に説明が必要になってくるし、後者は、経常的な必要経費であるということは想像に容易ですので、毎回の説明は必要ないものと考えられる。マネジメントの濃淡を把握する上で、経費の分類は重要である。

*4.4章に関して*

●短期的にマイスターが技術継承をして、中長期的にスペシャリストがコアとなるのは、むしろ逆ではないか。スペシャリストを養成するのには非常に時間がかかるので、短期的にも今から着実に養成を開始していかなければならない。

●スペシャリストを育てるには、最初からスペシャリストになる職員を決めて育成するほうが、技術の向上・継承という意味では確実である。

●マイスターについては、どういう人をマイスターとして認定するのか。マイスターはどのようなことをするのか。などを具体的に示すべきではないか。マイスターが漫然と講師をやるだけでは、効果を望めない

○スペシャリストの育成方法を議論する根拠となるアンケート分析をお示しいただきたい。

４．今後のスケジュールについて

今後のスケジュールについて、事務局より説明が行われた後、鎌田部会長より進め方について、提案があった。

●基本方針たたき台について、以下の分担で6月の中旬までに査読いただき、事務局まで連絡していただく。7月の初旬に次回の部会開催を予定する。

*分担*

P1～P37（1～4章）：木元委員

P38～：貝戸委員　　点検・診断・評価の手法や体制等の充実

P73～：貝戸委員　　日常的な維持管理の着実な実践

P99～：貝戸委員　　維持管理業務の改善と魅力向上のあり方

P55～：山口委員　　施設の特性に応じた維持管理手法の体系化

P82　：山口委員　　維持管理を見通した新設工事上の工夫

P94～：山口委員　　現場や地域を重視した維持管理の実践

P69～：長尾委員　　重点化指標・優先順位の考え方

P83～：長尾委員　　新たな技術・材料・工法の活用と促進策

P90～：長尾委員　　人材の育成と確保、技術力の向上と継承